

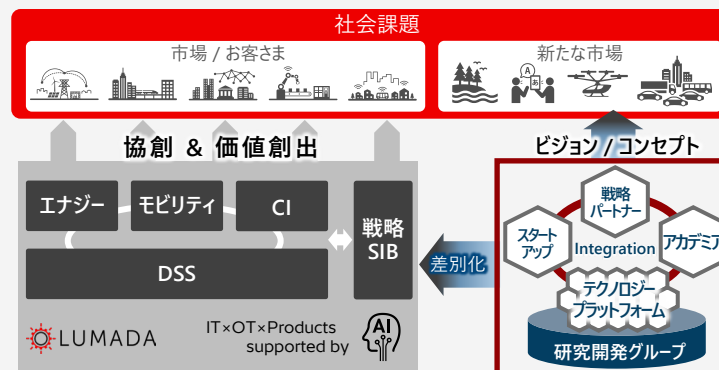
研究開発戦略

持続的イノベーションで、次の成長をけん引

日立は、社会課題の解決と持続可能な成長の両立をめざし、先端技術への継続的な研究開発投資を通じて、企業価値の最大化に取り組んでいます。日立の研究開発グループは、強い技術基盤をさらに進化させるとともに、長年培ったドメインナレッジ・OT技術・知的財産などの多様なアセットも活用し、イノベーションを推進しています。また、日立グループの技術基盤とともに、お客さま、アカデミアの戦略パートナーの技術も合わせて、新たな価値を創出しています。

Lumadaにおいては、我々の有する最先端のAI技術と現場で培ったドメインナレッジを融合させることで、現場の課題解決や業務効率化を支援する革新的なソリューションを創出しています。例えば、AIエージェント「Naivy (ナイヴィー)」[🔗](#)は、設備やシステムからリアルタイムで収集したデータと現場のナレッジを統合し、最適な対応策を現場作業者に提示することで、運用の高度化と安全性の向上に大きく貢献します。

さらに未来の成長を見据え、戦略SIBビジネスユニットと連携し、データセンターやeMobilityなど、社会や産業の変革をリードする重点分野において、日立の先進的なデジタル技術と社会



インフラに関する豊富なナレッジを融合させたイノベーションの創出に取り組んでいます。これらの取り組みを通じて、日立は革新的な技術と豊かな経験を強みに、未来を見据えた持続可能な社会の実現に向けて、確かな成長を続けていきます。

未来を切り拓く「Next」への挑戦で、事業の進化を支える [🔗](#)

日立は、がん治療を革新する高QoL粒子線治療、航空機までも含めたモビリティの電動化による移動スタイルの変革、シリコン



AIエージェント「Naivy」

量子コンピュータによる計算性能の飛躍、宇宙ビッグデータを活用したインフラ監視など、新たな破壊的技術による世界初・世界最高水準の技術開発に挑戦しています。これらの「Next」領域は、社会課題の解決と新たな市場創出の両立をめざす日立の成長ドライバーです。

日立は、2027年度までの3年間で1.3兆円規模の研究開発投資を計画し、Lumada開発と将来事業の技術開発の両輪で推進しています。次世代の成長領域への挑戦を続け、研究開発を通じて事業の高度化を支えています。

知的財産戦略

価値創造の源泉を活かすOne Hitachiの知財活動

Inspire 2027においては、特にデジタル・Lumada関連領域での事業間・地域間のシナジーが強化されることが期待されています。こうした連携の深化により、イノベーションやソリューションの創出が加速し、そこから生まれる知財も増えていくことが想定されます。日立は、これら知財を事業成長と価値創造の源泉と位置づけ、この源泉を適切に活かしていくために、CIPO (Chief Intellectual Property Officer) 主導のもと、組織横

断的かつグローバルに知財活動を強化しています。

具体的には、発明のみならず、ソフトウェアやデータ、意匠権、および当社のビジネスに役立つその他のIP (ノウハウや企業秘密など) を適切に保護・管理することで、デジタルをコアにした事業成長を支える適切な知財ポートフォリオ構築にも注力するとともに、グループ全体での知財の共有を推進しています。また、生成AIの進展に伴い、知財権やその管理への影響が

新たな課題となる中、著作権リスクの分析やガイドライン策定、知財業務への生成AIの活用、関連判例の把握など、知財分野におけるリスク管理にも注力しています。

このような知財の可視化、戦略的な管理・活用やグループ内での知財共有に加え、知財リスクの最小化を通じて、Inspire 2027の目標達成と真のOne Hitachiの実現に貢献していきます。